



日本フィルハーモニー交響楽団

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務める。

当初より幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。11年に創立55周年を迎えている。

この歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、質の高い音楽をお届けする「オーケストラ・コンサート」、音楽との出会いを広げる「エデュケーション・プログラム」、音楽の力で様々なコミュニティに貢献する「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。

ロシアの名匠、首席指揮者アレクサンドル・ラザレフ、桂冠指揮者小林研一郎、首席客演指揮者ビエタリ・インキネン、正指揮者山田和樹、そしてミュージック・パートナー西本智実という充実した指揮者陣とともに、さらなる演奏力の向上をめざし、「音楽を通して文化を発信」していく。

オフィシャル・ホームページ <http://www.japanphil.or.jp>

[チケットのお求め・お問合せ]

◎**チケットMove** (10:00~19:00)

042-742-9999

◎**チケットぴあ** 0570-02-9999

t.pia.jp Pコード [第3回217-629] [第4回217-630]

◎**ローソンチケット** 0570-000-777

l-tike.com Lコード [第3回38371] [第4回38372]

◎**イープラス** eplus.jp

◎**日本フィル・サービスセンター**

TEL 03-5378-5911 (平日10:00~17:00)

FAX 03-5378-6161 (24時間)

Eメール order-ticket@japanphil.or.jp (24時間)

◎**日本フィルeチケット** (席を選んでお申込みできます)

www.japanphil.or.jp

※学生は25歳以下。

※定期セット券は、チケットMove、日本フィル・サービスセンター(TELのみ)での予約及び相模女子大学グリーンホール、相模原市民会館、杜のホールはしもの各チケット・カウンターのみ取扱。

※定期セット券をお求めの方は、各公演のお席をご自由にお選びいただけます。

※学生、車椅子席は(定期セット券も含む)、チケットMoveでの予約及び相模女子大学グリーンホール、相模原市民会館、杜のホールはしもの各チケット・カウンターのみ取扱。

※6歳以上のお子様よりご入場いただけます。

※こちらの公演には、託児サービス(生後6か月以上/有料/受付は各公演の一週間前まで)がございます。詳細は下記にお問合せ下さい。

◎お申込み先 長谷川キャリアサポート株式会社

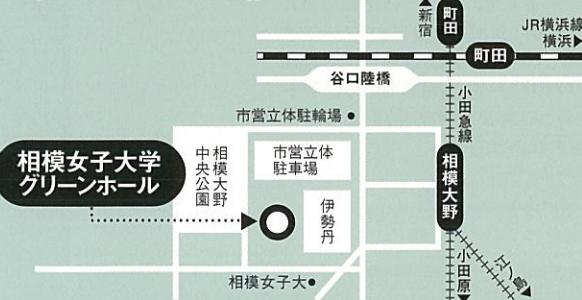
☎045-321-1388 (平日9:00~18:00)

相模女子大学グリーンホール

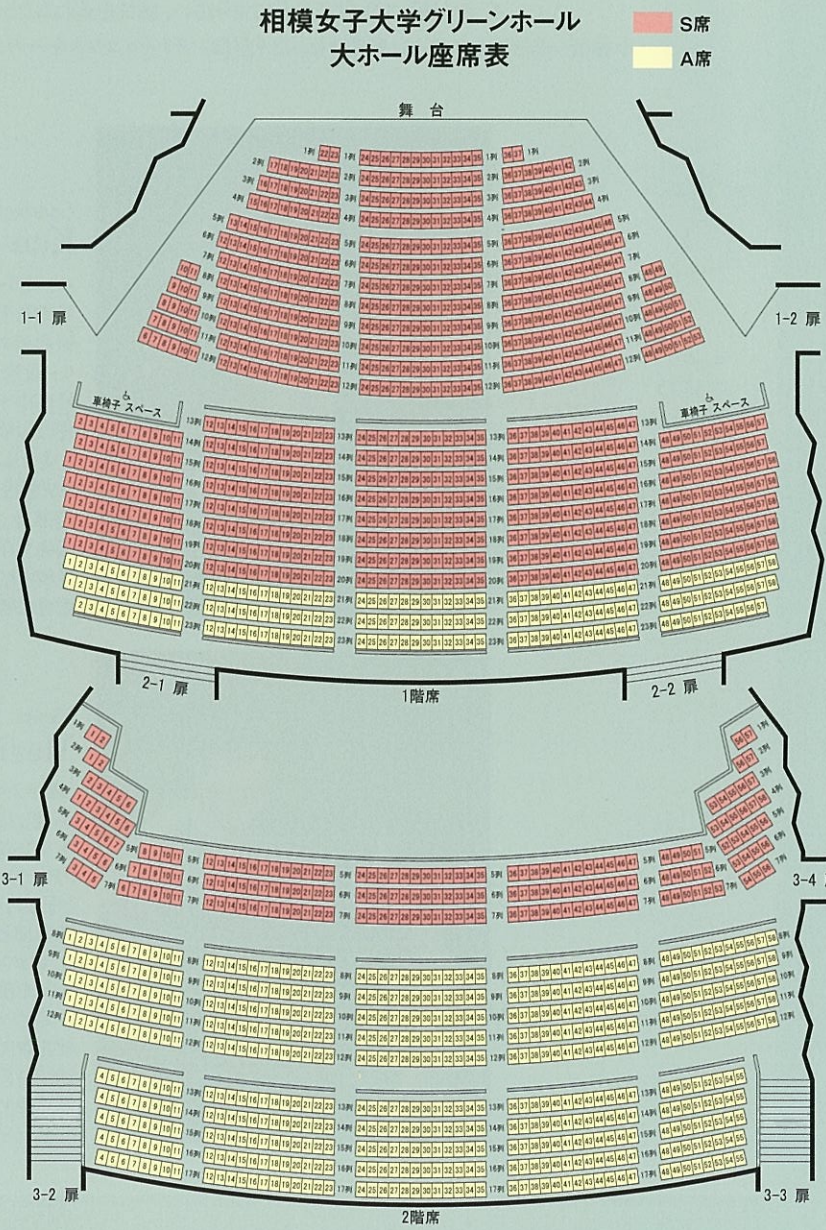
(小田急線相模大野駅 北口より徒歩4分)

〒252-0303 相模原市南区相模大野4-4-1

<http://www.hall-net.or.jp>



相模女子大学グリーンホール 大ホール座席表



日本フィルハーモニー 交響楽団

相模原定期演奏会
第3回&第4回



Alexander
Lazarev

チケットMove
先行発売

[定期セット券]

1/18(土)

[各定期1回券]

1/25(土)

[一般発売]
2/1(土)

第3回 2014年6月8日(日)

14:30開演 (13:45開場) ※演奏会の聴きどころや曲目を解説する
プレトーク(14:00~14:15)があります。

指揮:アレクサンドル・ラザレフ [日本フィル首席指揮者]
ピアノ:上原彩子

ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ブラームス:交響曲 第1番 ハ短調 作品68

第4回 2014年10月4日(土)

14:00開演 (13:15開場) ※演奏会の聴きどころや曲目を解説する
プレトーク(13:30~13:45)があります。

指揮:小林研一郎 [日本フィル桂冠指揮者]

ヴァイオリン:千住真理子

スメタナ:交響詩《モルダウ》

ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲 第1番 短調 作品26

チャイコフスキー:交響曲 第6番 口短調 作品74《悲愴》

※出演者・曲目等は変更になる場合があります。

◎全席指定 / S席5,000円 A席4,000円

◎定期セット券(第3回・第4回) / S席8,000円 A席6,000円

◎車椅子席 / 1回券4,000円 定期セット券6,000円

学生(25歳以下)は、各席種の半額

相模女子大学グリーンホール 大ホール(相模原市文化会館)

※チケットMove先行発売[1/18(土)定期セット券、1/25(土)各定期1回券]は、電話予約のみ取扱います。

窓口での販売は行いませんのでご注意ください。

※窓口および各プレイガイドでの販売は、[2/1(土)一般発売]から取扱います。

※日本フィル・サービスセンターでの販売は、2/3(月)から取扱います。



Ken-ichiro
Kobayashi

第3回

2014年6月8日(日)

14:30開演 (13:45開場)

※演奏会の聴きどころや曲目を解説する
プレトーク(14:00~14:15)があります。

主催:公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団
共催:公益財団法人相模原市民文化財団

[出演]
指揮 アレクサンドル・ラザレフ
[日本フィル首席指揮者]
ピアノ 上原彩子

[曲目]
ショパン
ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11
ブラームス
交響曲 第1番 ハ短調 作品68

※出演者・曲目等は変更になる場合があります。

第3回は、ロシアを代表する名指揮者であり、日本フィル首席指揮者のアレクサンドル・ラザレフを迎えます。
ショパンの《ピアノ協奏曲 第1番》では、チャイコフスキー国際コンクール・ピアノ部門において、日本人初の優勝を果たし、国内外で評価を得ている上原彩子を独奏者に迎えます。
上原彩子は、相模女子大学グリーンホールに出演(2013年)の際、圧倒的な集中力と表現力を披露し、相模原の聴衆を魅了したことは記憶に新しく、再びの登場となります。
ブラームスの《交響曲 第1番》は、着想から完成までに21年の月日を要し、「苦悩ののちの歓喜」とも言える壮大なドラマを展開する傑作です。
ラザレフと日本フィルのコンビでは、2009年に初めて取り上げられ、各方面で大絶賛されました。
今回、ここ相模原で再び名演が聴けることに期待が高まります。



Conductor
Alexander Lazarev

ロシアを代表する指揮者の一人。2008年9月から日本フィル首席指揮者。モスクワ音楽院でL.ギンズブルグに師事、同音楽院を首席で卒業。71年にソ連国際指揮者コンクールで第1位、翌年にはベルリンでのカラヤン指揮者コンクールで第1位とゴールド・メダルを受賞。87年から95年にかけてボリショイ劇場の首席指揮者兼芸術監督を務めた。92年から95年にかけてBBC響の首席客演指揮者を、97年から05年までロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管の首席指揮者を務めた。
数多くのCDをリリースしており、日本フィルとは就任以来、オクタヴィア・レコードから「首席指揮者就任記念演奏会ライブ盤」を含む7枚、日本フィルからは2枚のCDをリリースしている。



Piano
Ayako Uehara

3歳児のコースからヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。02年6月、第12回チャイコフスキー国際コンクール・ピアノ部門において、女性として、また日本人として史上初めての第一位を獲得。第18回新日録音楽賞フレッシュアーティスト受賞。
これまでに国内外にて演奏活動を行い、04年12月にはデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、04年度ベスト・ソリストに選ばれた。CDは日本人ピアニストとして初めてEMIクラシックスと契約し、チャイコフスキーの作品を取めた「グランド・ソナタ」、フリーベック・ダブルゴス指揮ロンドン交響楽団との共演によるチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番などを取めた「プロコフィエフ作品集」を含む3枚がワールドワイドでリリースされている。

第4回

2014年10月4日(土)

14:00開演 (13:15開場)

※演奏会の聴きどころや曲目を解説する
プレトーク(13:30~13:45)があります。

主催:公益財団法人相模原市民文化財団

[出演]
指揮 小林研一郎
[日本フィル桂冠指揮者]
ヴァイオリン 千住真理子

[曲目]
スメタナ 交響詩《モルダウ》
ブルッフ
ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26
チャイコフスキー
交響曲 第6番 口短調 作品74《悲愴》

※出演者・曲目等は変更になる場合があります。

第4回は、第1回演奏会にて、情熱的な指揮と真摯に音楽と向き合う姿によって、満員の聴衆を魅了した、日本フィル桂冠指揮者の小林研一郎を再び迎えます。
スメタナの《モルダウ》は、チェコで毎年開催される「ブラハの春」音楽祭で、スメタナの命日に演奏される作品です。
2002年、小林研一郎は東洋人初の指揮を務めており、まさに小林の真骨頂を聴くことができるでしょう。
ブルッフの《ヴァイオリン協奏曲 第1番》は、数々の名ヴァイオリニストのレパートリーとして人気を博す作品ですが、日本を代表するヴァイオリニストの千住真理子を独奏者に迎えて、お贈りいたします。
最後に、チャイコフスキーの《交響曲 第6番「悲愴」》は、「人生」を作品のテーマにしたと言われています。
独特のメランコリックな世界からは、希望や不安、苦悩、絶望など、さまざまな感情を聴きとることができます。現代に生きる私たちが、音楽を通じて作曲家の心に寄り添い、感情を重ねることができるのではないのでしょうか。
小林研一郎と日本フィルは、絶筆となった《悲愴》でチャイコフスキーの人生をどのように描くのか、どうぞご期待下さい。



Conductor
Ken-ichiro Kobayashi

ハンガリー国立交響楽団音楽総監督、日本フィル音楽監督、アーネム・フィル常任指揮者をはじめ、国内外のオーケストラのポジションを歴任。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中十字勲章、2010年にはハンガリー文化大使の称号が授与されている。11年文化庁長官表彰を受ける。現在、ハンガリー国立フィル、日本フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者、読響の特別客演指揮者、九州交響楽団の首席客演指揮者、東京芸術大学、東京音楽大学およびリスト音楽院名誉教授などを務める。12年7月より東京文化会館音楽監督に就任。



Violin
Mariko Senju

2歳半よりヴァイオリンを始める。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。14年はハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団とのツアーを予定。コンサート活動以外にも、ボランティア活動、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐にわたり活躍。著書は『聞いて、ヴァイオリンの詩』(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)、母との共著『命の往復書簡2011~2013』(文藝春秋社)など多数。
オフィシャル・ホームページ
<http://www.marikosenju.com>